公民館を訪ねて

音楽を中心としたまちづくり

― 観月の夕とハーモニーあそうづアンサンブル ―

麻生津公民館

1　麻生津地区の概要

東に霊峰文殊山を仰ぎ、西に豊かな日野川の流れを眺め、南は浅水川から鯖江市鳥羽に連なる麻生津は、古来北国街道の宿場町で交通の要衝として栄えてきた。

今日の麻生津は、JR・福鉄・北陸自動車道・国道8号線・県道福井鯖江線等交通の幹線が縦貫し、福井市の南の玄関口として重要な位置を占めている。交通の利便性から昭和40年代に大規模な住宅開発が進み、一時人口が1万人を超していた時期があった。平成28年8月現在は、2,868世帯・人口8,340人と減少したが、より充実した街に発展している。

地区北部には県立音楽堂（ハーモニーホール）が建設され、音楽ファンの憩いの場所になっている。

麻生津地区は、水と緑、歴史と音楽が調和した豊かな街に変貌を遂げようとしている。

2　音楽を中心としたまちづくり

元町内と新興住宅地との地区住民同士の調和（ハーモニー）を図ろうと、「音楽を中心としたまちづくり」事業を展開している。平成6年に福井市が提唱した「うらがまちづくり事業」の中で、平成9年に麻生津地区に県立音楽堂が建設されることが決まったことをきっかけに、「音楽を中心としたまちづくり」に取り組むことになった。

この事業に取り組むために委員会を発足させた。委員会のメンバーとして、小・中学校のPTA、子ども会育成会、体育協会、JA青壮年部、商工会青年部など30代から40代の働き盛りの若手に依頼した。この委員会のメンバーは、公民館に夜8時過ぎに集合し、深夜に及ぶ会議を数十回と重ねた。音楽を中心としたまちづくりは、地区住民の参画・参加により成り立つものであり、一人でも多くの住民を巻き込みたいとの思いから、地区を舞台に、住民が主役となり、みんなで舞台の幕を揚げようと事業名を「ハーモニー初舞台」と決めた。地区の歌を募集し、**「夢の街マイあそうづ」**が完成する。応募総数104点の中から詩が選ばれ、補作詞と作曲を当時の足羽中学校の先生に依頼し完成した。

また、県立音楽堂のこけら落としを飾ろうと、地元中学校の吹奏楽部OBを中心に吹奏楽団**「ハーモニーあそうづアンサンブル」**を結成した。楽団結成当時は、楽器と数十年離れた生活を送っていた団員がほとんどで、不安いっぱいの出発だったが、県立音楽堂のこけら落としで演奏できる喜びが勝り練習に熱が入り、メキメキ演奏の技量も向上していった。また、「夢の街マイあそうづ」をみんなで歌おうと、楽団が結成されたのを契機に合唱隊も編成した。歌ならだれでも参加できるということで、140名の**「ハーモニー歌い隊」**が結成された。

ハーモニーあそうづアンサンブルは、平成28年で、結成22年。団員は、30代から60代の総勢30人。団長は、「とにかく楽しく、和気あいあいとした雰囲気なんです」と胸を張る。県内では、公民館単位の地域住民だけによる楽団は珍しい。この楽団はコンクールを目指さず、地域での演奏活動が主体である。体育祭や文化祭、敬老会で生の演奏を披露し、その魅力を伝え

ている。県立音楽堂で開く年一度の定期演奏会に向け、月 4～5 回の地道な練習を続けている。

3　観月の夕

「観月の夕」は、音楽のまち麻生津をアピールし地区住民同士の絆を強めようと、麻生津地区自治会連合会、住民でつくる実行委員会が主催し行っている。今年で 12 回目で、毎年麻生津小学校の児童が作った四角柱型の行灯を飾っている。今回初めて「行灯を増やして観月の夕を盛り上げよう」と円柱型も作ることにした。県和紙工業協同組合の協力を得て、4 月から準備を進めてきた。大きさは高さ 15ｃｍ、直径 9ｃｍで、中に LED ライトを入れて光らせる。今年は、9 月 24 日午後 6 時から県立音楽堂野外広場で開かれる。

昨年の「観月の夕」の内容を紹介する。平成 27 年 9 月 26 日に、麻生津地区住民による音楽イベント「観月の夕」が開かれた。平成 27 年のテーマは「挑む」。少し背伸びをしたミュージカルに挑戦した。出演する住民は「音楽のまち麻生津の魅力を多くの人に伝えたい」と本番に向けて連日、練習を重ねてきた。平成 26 年の「観月の夕」のあとの企画会で、住民からミュージカルに挑戦したいという声が上がり採用された。披露するミュージカルは「サウンド・オブ・ミュージック」で、地区の若者がブロードウェイでミュージカルを学ぶというストーリー。麻生津版サウンドオブミュージックを、台本作りから始め、練習を重ね、オール麻生津で演じた。小学生から 70 代までの総勢約 100 名が出演し、8 月中旬から週 1～2 回、公民館に集まり約 2 時間稽古に励んできた。仁愛女子高校音楽科講師の方の指導で、「ドレミの歌」「エーデルワイス」「すべての山に登れ」など 5 曲を、ハーモニーあそうづアンサンブルの演奏に合わせて、歌や動きを確認した。出演者は、「最初はせりふや歌詞を覚えるのに苦戦した。今では楽しく稽古しながらお互い高め合っている」と胸を張る。

本番では、コミカルな演技、躍動感のある歌と踊りを披露し、「音楽のまち麻生津」の魅力を客席に届けた。手作り感と温かみにあふれる舞台構成で、多くの観衆を楽しませた。主催した地区自治会連合会長は、「みんなでミュージカルをすることが夢だった。若い世代を中心に熱意が実った」と感慨深げに話した。また、観月の夕実行委員長は、「若い世代が多く参加してくれて頼もしく感じる。これからの麻生津を盛り上げてくれるに違いない」と目を細めていた。

一方、県立音楽堂野外広場では、「1 坪エキスポ」と題し、自由に表現する 1 時間限りの展覧会を開催した。1 坪という限られたスペースで、ダンスやゲーム、読み聞かせを発表した。そして、「観月の夕」にはなくてはならない「夢あかり」の幻想的な灯りには、麻生津小学校児童が手すきで作った和紙に、「挑戦」をテーマに絵を描き、夕方 6 時の点灯時には、朝六つ子供太鼓の音色とともに灯りが灯された。フィナーレには花火も打ち上げられた。

4　終わりに

平成 28 年の「観月の夕」のテーマは、「みんなでやろっさ」。麻生津小学校の全校児童が願いを込めて描いた和紙が、夢あかりの回廊になる。県和紙工業協同組合の方に講師をお願いし、図工の授業の一環として、多くのボランティアの協力のもと、児童は紙すき体験をした。児童の上達ぶりに感心しながら、多くの方々の協力に感謝、感謝。

住民同士の調和を図ろうと、「音楽を中心にしたまちづくり」事業を展開してきたが、現在では、若い力も加わり成果が上がってきていると自負している。

今後も各種団体と連携を密にして、さらなる地区住民同士の調和を深め、活性化させていきたい。

今回は、「音楽を中心にしたまちづくり」を中心に掲載しました。紙面の都合上、他の事業を取り上げることはできませんでしたが、今年完成した「ふるさとかるた」、今年 8 月で 375 号になる広報紙「マイあそうづ」など大変充実した活動内容です。ホームページも毎月更新されていますので、それを読むと麻生津公民館の他の事業もよくわかります。

詳しくは、毎月更新しているホームページをご覧ください。